委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム（B）】
実施内容報告書

団体名：国立大学法人　群馬大学

1．事業の概要

事業名称	日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室 －日本で高齢期を生きるための知恵と経験を次世代に伝えるきっかけづくりの提供－
事業の目的	日本に定住し高齢期に向けて備えをはじめる外国人住民が、日本で高齢期を過ごすということを主体的に考え、高齢期にむけた納得のいく備えができるように支援する地域日本語教育を実現する。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	外国人住民の視点からは、①在住地域の日本語教室の存在がわからない、②「あいうえお」や文法の学習ばかりで継続の意欲がもてない、地域日本語教室の視点からは、③当該「地域」に暮らすために必要な「地域」情報を踏まえた「日本語」教育カリキュラムが提供されていない、④指導者が、日本の社会のしくみを一方的に教えるだけという現状がある。
本事業の対象とする空白地域の状況	①平成27年12月31日現在、外国人住民数は12名、外国人人口比率は0.4%。 ②外国人住民の存在は一般住民には見えにくく、「生活者としての外国人」の日本語教育の必要性は認識されていない。
事業内容の概要	①「ぐんまで『高齢期』に備えるための日本語教育」プログラム拡充のためのカリキュラム開発を行い、②開発したカリキュラムを実践する地域日本語教室の指導者を養成する。③養成した人材と共に(a)外国人集住地域の「太田教室」で地域日本語教室を実施する。(b)本年度の「空白の地域」の対象とする群馬県川場村での交流機会を設定して、「太田教室」の成果を学習者を中心に紹介することで、プログラムの拡充・普及を図る。また、④プログラムの拡充・普及にむけた実態調査と⑤実践地域関係者との協議を進める。
事業の実施期間	平成28年5月～平成29年3月（10か月間）

2．事業の実施体制

（1）運営委員会

【運営委員】

1	結城　恵	群馬大学大学教育・学生支援機構 大学教育センター
2	大和　啓子	群馬大学国際教育・研究センター
3	佐藤　由美	群馬大学大学院保健学研究科
4	小林　均	NPO法人ベアリスランニングクラブ
5	角田　淑江	群馬県生活文化スポーツ部人権男女・多文化共生課
6	乘原　達也	川場村むらづくり振興課
7	大澤　美和子	太田市企画部交流推進課
8	杉浦　俊之	国立赤城青少年交流の家
9	坂本　裕美	太田市教育委員会

第1回運営委員会の様子

【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年 11月16日 （水）14：00～ 16：00	2	群馬大学 荒牧キャンパス 大学会館　1階会議室	乘原 達也（川場村），小林 均（NPO法人ベアリスランニングクラブ），坂本 裕美（太田市教育委員会），大和 啓子・結城 恵（群馬大学） 陪席：高橋 悠（国立赤城青少年交流の家）	1．平成28年度採択事業の骨子と概要について説明し、意見交換を行った。 2．平成28年度採択事業の進捗状況・推進体制について説明し意見交換を行った。
2	平成29年2月12日 （日）11：00～ 12：00	1	群馬大学 太田キャンパス 4階 研修室2	坂本 裕美（太田市教育委員会），大和 啓子・結城 恵（群馬大学）， 陪席：小林 あけみ(太田市立中央小学校)	1．平成28年度採択事業の成果と課題について説明し、意見交換を行った。 2．実施報告と推進体制について、意見交換を行った。

（2）地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	国立大学法人 群馬大学 　地域における生活者としての外国人の、日本語教育に対する実態とニーズ把握・カリキュラム開発・指導者養成、日本語教育の展開。 群馬県・太田市・川場村 　学習者の募集協力。本事業の県民・市民への周知・広報。指導者養成・地域日本語教室の開催による人材と知見の活用。 「多文化共生推進士」 　教育、スポーツ指導、同時通訳、マーケティング等、それぞれの専門領域を活かし、日本語教育プログラムの開発に参画。担当地域での日本語教育ニーズの掘り起し、実施に向けた連絡調整。

（3）中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	Ⅰ．本事業の統括・進捗管理　（結城　恵） Ⅱ．日本語教育プログラムの開発　（坂本　裕美・小林あけみ・正田　江利子・小佐野　隼・葛尾あゆみネイデ・大和　啓子・結城　恵） Ⅲ．教室運営に関するコーディネート 　①太田教室担当　（増田　英幸） 　②川場村との調整担当　（増田　英幸） 　相談・助言業務と連絡調整業務担当＋学習者のポートフォリオ・指導者の指導記録の収集と管理担当（増田　英幸） Ⅳ．人材の養成・研修及び学習教材の監修　（大和　啓子・結城　恵）

3. 各取組の報告

＜取組1＞		
取組1	取組の名称	地域日本語教室プログラム拡充のためのカリキュラム開発
	取組の目標	本取組の目標は、日本に定住し高齢期に向けて備えをはじめる外国人住民が、日本で高齢期を過ごすということを主体的に考え、高齢期にむけた納得のいく備えを考え・行動するようなカリキュラムを開発することである。すなわち、学習者にとって、日本社会での高齢期のとらえ方・備え方について正確な情報が得られると同時に、母国での高齢期の考え方や親世代から受けた知恵と重ね合わせ、どのようにしたら日本でむかえる高齢期を、学習者にとって納得し豊かに過ごすことができるのかを考え・行動するようなカリキュラムを開発する。その成果を、【取組2】地域日本語教室指導者養成講座と、【取組3】地域日本語教室の開催に反映する。
	取組の内容	平成25～27年度に実施した「日本に定住を希望する外国人住民が『高齢期』に向けて備えるための地域日本語教室」のカリキュラム・学習者及び指導者に関する記録を見直し、平成28～30年度の3年間でカリキュラムを見直して精緻化し、指導計画書・教材教具・学習者のポートフォリオ・指導力評価の事例集を作成する。 平成28年度は25～27年度に取り組んだ以下の12の単元（マネープラン・年金・介護・地域交流・防災・健康・冠婚葬祭・栄養・頭の体操・ストレッチング・ウォーキング・マッサージ）を、次の単元（自己紹介と名前・防災・あかぎ多文化交流キャンプ・健康クッキング・川場村視察学習・世代間交流・お茶会・学習報告）と単元実施のための事前学習及び振り返りの回に整理して実施した。実施にあたっては、学習者が日本で高齢期を「主体的に」生きるという観点から、本学で展開してきた地域日本語教室のカリキュラムを見直して精緻化し、テキスト作成にも取り組んだ。
	☑ 空白地域を含む場合、空白地域での活動	空白地域として、「利根郡川場村（以下、「川場村」と記す）」を対象地域に設定する。「太田教室」の学習者とともに訪問し、「太田教室」の学習者がこれまでの成果発表の場として、教室で学んだストレッチングやウォーキング等の活動を日本語で学習者に伝えたり、川場村での様々な体験活動（農産物に関する学習、寺院視察、お茶体験、酒蔵視察等）を通して、継続的な交流につなげるようにした。
	取組による体制整備	【取組1】で検討したカリキュラムを、【取組2】地域日本語教室指導者養成講座と、【取組3】地域日本語教室で活用し、その妥当性を【中核メンバー】の講師が分析した上で、【運営委員会】においてカリキュラムの効果を検証した。。
	取組による日本語能力の向上	日本に定住し高齢期に向けて備えをはじめる外国人住民が、日本で高齢期を過ごすということを主体的に考え、高齢期に向けた納得のいく備えを考え、その考えを日本語を活用して行動に移すことができるようなカリキュラムを開発した。
	参加対象者	コーディネーター・平成28年度本事業で新規開講予定の「リーダー指導者」養成講座対象者
	参加者数（内 外国人数）	15人（5人）
	広報及び募集方法	（該当無し）
	開催時間数	総時間　13 時間（うち空白地域　1　時間）
	（回数）8回　・計13時間（回によって開催時間は異なる。）	
	主な連携・協働先	群馬県生活文化スポーツ部人権男女・多文化共生課、群馬県利根沼田行政県税事務所、太田市企画部交流推進課、川場村むらづくり振興課、田園プラザ川場、青龍山吉祥寺、永井酒造株式会社、国立赤城青少年交流の家、群馬県栄養士会、一般財団法人サンデン環境みらい財団（環境ネットワークキャンパス）等
	開催場所	群馬大学荒牧キャンパス（前橋市荒牧町四丁目2番地）、群馬大学太田キャンパス（太田市本町29-1）、太田市九合行政センター（太田市飯塚町591-1）、田園プラザ川場（利根郡川場村大字萩室385）

参加者の出身・国別内訳（人数）	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
					1			4
日本（10 人）								

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年 6月9日（木） 19:00～21:00	2	群馬大学 荒牧キャンパス	5人	平成28年度カリキュラムについて	平成28年度に取りあげる教授項目について検討した。	結城恵	小佐野隼, 小林あけみ, 正田江利子, 増田英幸
2	平成28年 6月19日（日） 10:00～12:00	2	群馬大学 太田キャンパス	9人	平成28年度カリキュラムについて	教授項目の効果的な配列と教授項目の詳細について検討した。	結城恵	坂本裕美, 小林あけみ, 糸井昌信, 糸井和子, 佐藤工祐, 佐藤友美恵, 葛尾あゆみネイデ, 増田英幸
3	平成28年 8月30日（火） 18:00～20:00	2	群馬大学 荒牧キャンパス	5人	平成28年度カリキュラム「赤城宿泊学習」について	到達目標と教材作成について検討した。	結城恵	小林あけみ, 正田江利子, 坂本裕美, 葛尾あゆみネイデ
4	平成28年 9月14日（水） 19:00～21:00	2	群馬大学 荒牧キャンパス	4	平成28年度カリキュラム「健康」について	教授項目の詳細・協力機関との連携について検討した。	結城恵	小林あけみ, 坂本裕美, 葛尾あゆみネイデ

5	平成28年 10月30日（日） 16：00～17：00	1	太田市 九合行政センター	5人	平成28年度カリキュラム「川場」について	教授項目の詳細・協力機関との連携について検討した。	結城恵	坂本裕美, 正田江利子, 増田英幸, 堀本アンキャロル
6	平成28年 11月17日（木） 15：00～16：00	1	田園プラザ川場	2人	平成28年度カリキュラム「川場」について	教授項目の詳細・協力機関との連携について検討した。	_	小林あけみ, 増田英幸
7	平成28年 11月30日（水） 19：00～20：00	1	群馬大学 荒牧キャンパス	3人	平成28年度カリキュラム「次世代に伝える」について	教授項目の詳細・協力機関との連携について検討した。	結城恵	小佐野隼, 増田英幸
8	平成29年 3月13日（月） 19：00～21：00	2	群馬大学 太田キャンパス	12人	実施事業の振り返りと地域日本語教室カリキュラムについて	今年度の取組に関する意見交換を通して、カリキュラムの精緻化に向け検討した。	増田英幸	糸井昌信, 山田恵美子, 葛尾あゆみネイデ,堀本アンキャロル, ISHIMARU MARCELO KOITI,坂本裕美, 小林あけみ, 正田江利子, 増田英幸, 糸井和子, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA

（1）特徴的な活動風景

○取組事例①

【第1回　平成28年6月9日】
　平成25年度～平成27年度の取組に参画してきた「多文化共生推進士」とともに、地域の外国人住民の状況を踏まえた上で、各自の専門分野（教育・スポーツ指導・マーケティング・通訳）の視点にたって意見を交換し、平成28年度の地域日本語教室の教授項目について検討した。

○取組事例②

【第2回　平成28年6月19日】
地域日本語教室の指導経験者が学習者の状況・ニーズ・地域のリソースについてヒアリングした内容を持ち寄り、教授項目の詳細について検討した。また、教授項目の効果的な配列及びスケジュールの検討も行った。

（2） 目標の達成状況・成果

本取組の目標は学習者が日本での高齢期を過ごすことを主体的に考え、備えるためのカリキュラムを開発することにある。【取組4】の実態調査に基づき【取組2】指導者養成【取組3】地域日本語教室の運営を通して得た知見を、カリキュラムとして整備し、テキスト化を図った。日本語教室の最終回が近づくと、早くも学習者から「来年はいつから？」という質問が出ていた。これは、学習者と指導者が国籍や年齢の違いに関係なく、ともに学びあうことができ、ともに楽しむことができ、ともに手応えを感じられるカリキュラムを目指して取り組んだ成果と言えよう。また、学習者には各回ごとに作成した日本語教室のテキストをファイリングし、常に携行して定着を図る様子が見られた。

（3） 今後の改善点について

いくつかの単元について、具体的な課題と課題解決のための方法案を導き出すことができた。
例えば、「赤城宿泊学習について」では、以下のような課題を抽出し、課題解決のための方策を導いた。
［課題］
1）成人参加者と、次世代の青少年の参加者のいずれもが達成感を感じられる内容にすること。
2）通常の教室では取組が難しい、食事や入浴、宿泊の実際の場面での日本語学習を有効なものとすること。
［課題解決のための方法案］
1）「高齢期に備える」成人向けのプログラムに対し、次世代にあたる青少年が貢献できる内容の充実をはかる。
2）食事や入浴、宿泊の場面は指導者と学習者による小グループにより活動することにより、日本語会話を促し理解が不十分な点があれば、その場で修正できるようにする。

＜取組2＞

取組2

取組の名称	地域日本語教育プログラム拡充のための地域日本語教室指導者の養成	
取組の目標	本事業で開発したカリキュラムの内容と方法を習得し、太田教室での実践及び空白の地域としての川場村等での実践を展開するための「指導者」と「リーダー指導者」を養成する。	
取組の内容	①「指導者」の養成 【取組1】で開発したカリキュラムを、【取組4】で収集・分析される対象地域（太田市・川場村・両周辺地域及び適用可能性を検討する他県他地域）での実態調査を踏まえ、①学習者の理解、②教材研究、③単元毎の学習教材の作成、④単元毎の教案の作成、⑤授業実践、⑥実践後の振り返りを、理論的かつ実践的に指導し人材を養成した。 ②「リーダー指導者」の養成 上記①の「指導者」の養成の事前・事後研究に参画させ、「指導者」の養成方法に求められる指導方法を総合的に学ぶ機会を提供する。上記①の「指導者」養成講座のうち、「リーダー指導者」候補生が講師補助者として指導を企画・実施する回を各人2回設定し、平成29年度には講師として地域日本語教室指導者として、平成30年度には地域日本語教室指導者養成講座コーディネーターとして活躍できるように実践経験を積ませる。	
☑ 空白地域を含む場合、空白地域での活動	「太田教室」の学習者とともに川場村を訪問して、「太田教室」の学習者がこれまでの成果発表の場として、教室で学んだストレッチングやウォーキング等の活動を日本語で学習者に伝える等のカリキュラムを検討して実施し、空白の地域である川場村での教室開設に向けた効果を検証した。	
取組による体制整備	【取組1】で検討したカリキュラムを、【取組4】で収集・分析される対象地域（「太田市」と「川場村」、及び、適用可能性を検討する他県他地域）での実態調査を踏まえ、地域日本語教室で効果的に活用する「指導者」と、平成31年度からは地域日本語教室の主催者として「指導者」への指導・助言ができる「リーダー指導者」を養成する。【取組3】では、【取組2】で養成した人材が実習体験を積むと同時に、【取組1】で開発したテキストや指導ガイドブック等の使い勝手を検証すした。	
取組による日本語能力の向上	日本に定住し高齢期に向けて備えをはじめる外国人住民が、日本で高齢期を過ごすということを主体的に考え、高齢期にむけた納得のいく備えを考え、その考えを日本語を活用して行動に移すことを導き出す指導者を養成した。	
参加対象者	本事業の指導者・本事業で平成26年度に養成を終えた地域日本語指導者とコーディネーター他	参加者数（内 外国人数）：18人（6人）
広報及び募集方法	「指導者」については、養成講座の受講に群馬大学荒牧キャンパスに通うことができ、「太田教室」の活動にも継続的に参加できることを要件とし、「空白の地域」の対象とする「川場村」からも本事業の指導者となることに関心のある人材を募る。「リーダー指導者」については、平成28年度は「多文化共生推進士」のうち（平成25～27年度）の「指導者」養成講座に参画した5名を候補者とした。	
開催時間数	総時間 43 時間（空白地域 0時間）	（回数）12回
主な連携・協働先	群馬県生活文化スポーツ部人権男女・多文化共生課、群馬県利根沼田行政県税事務所、太田市企画部交流推進課、川場村むらづくり振興課、田園プラザ川場、青龍山吉祥寺、永井酒造株式会社、国立赤城青少年交流の家、群馬県栄養士会、一般財団法人サンデン環境みらい財団（環境ネットワークキャンパス）等	
開催場所	群馬大学太田キャンパス（太田市本町29-1）、太田市九合行政センター（太田市飯塚町591-1）	

参加者の出身・国別内訳（人数）	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
					1			5
	日本（12人）							

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年 7月3日(日) 10:00～12:00 13:00～15:00 15:00～17:00	6	群馬大学 太田キャンパス	11人	本年度日本語教育事業の取組について	・平成28年度日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室の概要、カリキュラム案の基本事項、スケジュールについて説明。 ・想定する学習者及びニーズについてのヒアリング内容について検討。	結城恵	該当無し
2	平成28年 7月31日(日) 10:00～12:00 13:00～15:00 15:00～17:00	6	群馬大学 太田キャンパス	12人	日本語教室の準備について	・教室各回の内容について検討。 ・第1回「外国の方の名前」、第2回「防災／あかぎ多文化交流キャンプ事前学習」、第3回「あかぎ多文化交流キャンプ」の講義内容について意見交換。	結城恵	該当無し
3	平成28年 8月6日(土) 10:00～12:00 13:00～15:00 15:00～17:00	6	群馬大学 太田キャンパス	9人	日本語教室の準備について	・第1回「外国の方の名前」、第2回「防災／あかぎ多文化交流キャンプ事前学習」、第3回「あかぎ多文化交流キャンプ」について活動内容を決め、指導計画書及び教材の検討。	結城恵	該当無し
4	平成28年 8月21日(日) 9:30～12:00 16:15～16:45	3	群馬大学 太田キャンパス	12人	第1回日本語教室の事前事後実施の検討	・第1回教室「はじめまして 外国人名前あるある」の講義シミュレーション。講義内容の検討、見直し。 ・講義内容の振り返り。	結城恵	該当無し
5	平成28年 9月4日(日) 9:30～12:00 16:15～16:45	3	群馬大学 太田キャンパス	12人	第2回日本語教室の事前事後実施の検討	・第2回教室「防災／あかぎキャンプ事前学習」の講義内容の検討、見直し。 ・講義内容の振り返り。	結城恵	小林あけみ
6	平成28年 10月30日(日) 9:00～10:30 15:30～16:00	2	太田市 九合行政センター	13人	第5回日本語教室の事前事後実施の検討	・第5回教室「健康クッキング」の講義内容の検討、見直し。 ・講義内容の振り返り。	結城恵	正田江利子
7	平成28年 11月6日(日) 9:30～12:00 16:15～16:45	3	群馬大学 太田キャンパス	11人	第6回日本語教室の事前事後実施の検討	・第6回教室「ブラ川場事前学習」、第7回教室「ブラ川場」の講義内容の検討、見直し。 ・講義内容の振り返り。	結城恵	増田英幸

8	平成28年 12月11日(日) 9:30～12:00 16:15～16:45	3	群馬大学 太田キャンパス	13人	第8回日本語教室の事前事後実施の検討	・第8回教室「せっけんづくり／もったいないを学ぶ」の講義内容の検討、見直し。 ・講義内容の振り返り。	結城恵	小佐野隼
9	平成29年 1月8日(日) 9:30～12:00 16:15～16:45	3	群馬大学 太田キャンパス	11人	第9回日本語教室の事前事後実施の検討	・第9回教室「ふりかえり」、第10回教室「お茶会」、第12回教室「報告会」の講義内容の検討、見直し。 ・講義内容の振り返り。	結城恵	増田英幸
10	平成29年 1月22日(日) 9:30～12:00 16:15～16:45	3	太田市 九合行政センター	12人	第10回日本語教室の事前事後実施の検討	・第10回教室「お茶会」の講義内容の検討、見直し。 ・講義内容の振り返り。	結城恵	坂本裕美
11	平成29年 2月5日(日) 9:30～12:00 16:15～16:45	3	群馬大学 太田キャンパス	11人	第11回日本語教室の事前事後実施の検討	・第11回教室「スピーチ練習」の講義内容の検討、見直し。 ・講義内容の振り返り。	結城恵	小林あけみ
12	平成29年 2月12日(日) 9:00～11:00	2	群馬大学 太田キャンパス	15人	第12回日本語教室の事前事後実施の検討	・第12回教室「報告会」の講義内容の検討、見直し。	結城恵	坂本裕美 小佐野隼 小林あけみ

（1）特徴的な活動風景

○取組事例①

【第1回　平成28年7月3日】
　昨年度の教室指導者に加え、新たに2名の指導者候補が加わった。太田市の小学校で日本語指導助手として勤務する堀本氏（フィリピン出身）と、昨年は学習者として参加していたISHIMARU氏（ブラジル出身）である。日本で高齢期を主体的に生きるための地域日本語教室の進め方について、全員で意見を交換するとともに、学習者のニーズを分析しながら教材や教室活動を検討した。

○取組事例②

【第10回　平成28年1月22日】
・第10回教室では、茶道の稽古を15年以上にも渡って継続しているブラジル人のダ・シルバ・フランシスコ・ベルナルデス氏による「お茶会」をテーマとする日本語教室の実践にあたり、リーダー指導者、指導者の教室運営について検討した。教室活動としては茶室における客としてのマナーについての学習、お点前を披露していただくことを通して「茶道」に触れるとともに、氏の経験についてお話を聞き学習者全員で意見交換を行う。より効果的な学習のために、指導計画書をもとに、茶室での活動をシミュレーションし、そこで使われるフレーズをタイミングよく導入する方法について詳細に検討した。また、全員での意見交換を促すようサポートするにはどうすべきか指導者全員で話し合った。

（2） 目標の達成状況・成果

本事業で開発したカリキュラムを地域で実践するための「指導者」及び「リーダー指導者」を養成することができた。
「指導者」は個々の単元を担当し、指導計画書を作成して教室で実践できるようになった。「リーダー指導者」には教室で単元を担当するにとどまらず、「指導者」候補者に対するサポートを通して、指導者の養成に求められる指導方法を総合的に学ぶ機会を提供した。具体的には、リーダー指導者と指導者がペアで単元を担当し、地域の学習者の状況・ニーズに沿った目標を設定して指導計画書の作成に取り組み実践するよう指導した。当日の教室運営においてもリーダー指導者が中心となって進行することができるようになった。また、リーダー指導者には地域のリソースを把握し、教室活動への積極的活用をはかるよう指導した。その結果、地域で活躍する人材や団体を日本語教室に招いて指導いただく機会が実現した。

（3） 今後の改善点について

養成講座で地域日本語教室のリーダー指導者・指導者として、実際の教室運営を担当しながら資質を高める方法はたいへん有効であった。本事業ではこれまで日本語教室の学習者側であった人材が指導者を志して受講生に加わる動きも出てきているため、地域の実情に応じた日本語教育指導について、意見交換をしながら改善を図りたい。また、本事業で養成したリーダー指導者・指導者が、身につけた指導方法と地域のリソースを活かした実践を拡充させられるよう資質向上の取組を工夫していきたい。

＜取組3＞

取組3

取組の名称	地域日本語教育プログラム拡充のための地域日本語教室の開催
取組の目標	【取組1】で開発したカリキュラムを【取組2】で養成した地域日本語教室指導者と共に、地域日本語教室にて実践展開する。日本に定住し高齢期に向けて備えをはじめる外国人住民が、日本で高齢期を過ごすということを主体的に考え、高齢期にむけた納得のいく備えができるように支援する地域日本語教室を展開する。
取組の内容	平成28年度は、新規単元として「教育」（高齢期だからこそ学びたいこと・次世代に伝えたい教育）を設定した。また、平成25～27年度に取り組んだ以下の12の単元（マネープラン・年金・介護・地域交流・防災・健康・冠婚葬祭・栄養・頭の体操・ストレッチング・ウォーキング・マッサージ）を整理し、補完すべき単元を検討を行った。その上で、今期は、「高齢期に向けた健康づくり」をテーマとし、①「体の体操」（ストレッチング・ウォーキング・マッサージ）、②「頭の体操」（後出しじゃんけん・コグニサイズ・カードゲーム）、③「栄養と食事」（疾病予防のための栄養摂取と調理実習）の3つの単元を実施した。 これらの単元を、学習者の主体性を大切にし、日本人が高齢期に備えるやり方を一方的に学ぶというのではなく、日本での備えに関する情報と、母国での高齢期に関する考え方や親世代から受継いだ知恵と重ね合わせながら、日本でむかえる高齢期を納得し豊かに過ごす方法を考え、工夫し、実践することを日本語教育を通して導けるよう各単元を開催した。また、「川場村」における外国人住民や地域関係者との交流教室や、他の学習者の家族と交流する機会を提供し、上述した単元を習得した学習者がその学習内容を伝え、一緒に練習できるよう機会を設けた。
☑ 空白地域を含む場合、空白地域での活動	「川場村」における外国人住民や地域関係者との交流教室や、他の学習者の家族と交流する機会を提供し、上述した単元を習得した学習者がその学習内容を伝え、一緒に練習できる機会を設けた。
取組による体制整備	【取組1】で開発したカリキュラムを【取組2】で養成した地域日本語教室指導者と共に、地域日本語教室において実践展開した。その上で、中核メンバーの講師3名がカリキュラムの妥当性と養成した人材を評価し、【運営委員会】においてカリキュラムの効果を検証した。
取組による日本語能力の向上	日本に定住し高齢期に向けて備えをはじめる外国人住民が、日本で高齢期を過ごすということを主体的にとらえ、高齢期にむけた納得のいく備えについて考え、地域日本語教室の展開を通して、その考えを日本語へと言語化すると共に、行動に反映する機会を設けることにより、学習者の多くの日本語能力が向上した。
参加対象者	「太田市」、「川場村」、その周辺地域の在住または在勤の成人及びその家族
参加者数（内 外国人数）	69人(57人) *指導者を含む
広報及び募集方法	「太田市」と「川場村」及び両地域の周辺地域の自治体や国際交流協会等に周知し、学習者を募った。
開催時間数	総時間　67　時間（うち空白地域　9　時間）
（回数）12回　（回によって開催時間は異なる。実施内容を参照）	
主な連携・協働先	群馬県生活文化スポーツ部人権男女・多文化共生課、群馬県利根沼田行政県税事務所、太田市企画部交流推進課、川場村むらづくり振興課、田園プラザ川場、青龍山吉祥寺、永井酒造株式会社、国立赤城青少年交流の家、群馬県栄養士会、一般財団法人サンデン環境みらい財団（環境ネットワークキャンパス）等
開催場所	「太田教室」は群馬大学太田キャンパス（太田市本町）、「川場村」は田園プラザ川場、青龍山吉祥寺、永井酒造株式会社にて開催した。

参加者の出身・国別内訳（人数）	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	5	2			14			15

日本（12人），ペルー（17人），インド（2人），アメリカ（1人），ボリビア（1人）

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年 8月21日（日） 13:00～16:00	3時間 ×2回	群馬大学 太田キャンパス	34人	たかが名前・ されど名前	・日本語教室の概要説明 ・スタッフ紹介 ・「自己紹介」の仕方について学習及び練習 ・参加者全員でストレッチングの実践 ・ディスカッション「名前あるある」	結城恵	糸井昌信, 糸井和子, 葛尾あゆみネイデ, 堀本アンキャロル, ISHIMARU MARCELO KOITI, 坂本裕美, 小林あけみ, 正田江利子, 小佐野隼, 増田英幸
2	平成28年 9月4日（日） 13:00～16:00	3時間 ×2回	群馬大学 太田キャンパス	33人	防災・あかぎ多文化交流キャンプ活動事前学習	・参加者全員でストレッチングの実践 ・「防災」及び「あかぎ多文化交流キャンプ」での活動についての説明、グループ分け 1. 防災 ・災害関係の単語学習 ・自宅近くの「避難所」の確認 ・「避難所」で安全に過ごすために：身近　にある「新聞紙」でスリッパ 「キッチンペーパー」でマスクの作り方を 知る ・母国での災害・避難所等についてディスカッション 2. あかぎ多文化交流キャンプ活動事前学習 ・あかぎ多文化交流キャンプの概要説明 （集団生活、活動等） ・係活動（総務、環境、レクリエーション、ストレッチング）に関する説明・グループ分け及び使用するフレーズの学習 ・係活動についてのディスカッション 「そうだったのか、日本のキャンプ！」	結城恵	糸井昌信, 糸井和子, 山田恵美子, 葛尾あゆみネイデ, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA, 堀本アンキャロル, ISHIMARU MARCELO KOITI, 坂本裕美, 小林あけみ, 正田江利子, 小佐野隼, 増田英幸
3	平成28年 10月1日（土） 11:00～12:00 13:00～17:30 18:30～21:00	8時間	国立赤城青少年交流の家	27人	あかぎ多文化交流キャンプ①	・始めの会：一泊二日のスケジュール及び各活動についての説明 ・あかぎアドベンチャープログラム：グループでの課題解決活動の実施。 ・タベの集い：宿泊している各団体の紹介等 ・キャンプファイヤー：山の神様の物語、日本の歌・踊り、参加者の国の踊りの紹介等 ・ナイトプログラム：活動についての意見交換及び振り返り	結城恵	糸井昌信, 山田恵美子, ,葛尾あゆみネイデ, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA, 堀本アンキャロル, ISHIMARU MARCELO KOITI, 茂呂隆司, 坂本裕美, 小林あけみ, 増田英幸
4	平成28年 10月2日（日） 8:00～12:00	4時間	国立赤城青少年交流の家	27人	あかぎ多文化交流キャンプ②	・朝の集い：赤城青少年交流の家より注意事項等の説明、交流会 ・利用設備(部屋、廊下、階段等)の掃除 ・ストレチングの実践 ・アドベンチャーラリー：散策及び工作 ・2日間の思い出を振り返り、メッセージ作成 ・終わりの会	結城恵	葛尾あゆみネイデ, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA, ISHIMARU MARCELO KOITI, 坂本裕美, 小林あけみ, 増田英幸
5	平成28年 10月30日（日） 10:30～15:30	5時間	太田市 九合行政センター	21人	骨粗しょう症予防のための健康クッキング	・栄養指導及び調理説明 ・調理実習及び食事 ・栄養士への質問応答 ・骨粗しょう症の予防方法等についてのディスカッション	石山輝美氏, 杉島恵氏, 結城恵	糸井昌信, 糸井和子, 山田恵美子, 葛尾あゆみネイデ, 堀本アンキャロル, ISHIMARU MARCELO KOITI, 茂呂隆司, 坂本裕美, 小林あけみ, 正田江利子, 小佐野隼, 増田英幸

6	平成28年 11月6日（日） 13:00～16:00	3時間 ×2回	群馬大学 太田キャンパス	22人	「ブラ川場」事前学習	・「ブラ川場」に向けての概要説明 ・係に分かれて役割分担し、実際に使う日本語フレーズの意味の確認及び練習 ・川場村におけるお茶会体験の事前学習としてブラジル人茶道愛好家によるお点前の見学	Da Silva Francisco Bernardes氏, 結城恵	葛尾あゆみネイデ, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA, 堀本アンキャロル, ISHIMARU MARCELO KOITI, 茂呂隆司, 小林あけみ, 増田英幸
7	平成28年 11月20日（日） 9:00～18:00	9時間	川場村 田園プラザ川場 青龍山吉祥寺 永井酒造株式会社	21人	「ブラ川場」本番	・道の駅　田園プラザかわばにてプラザ内の視察、昼食、ウォーキング・ストレッチングの実施 ・青龍山吉祥寺、永井酒造株式会社の視察及び体験等	永井則吉氏, 結城恵	糸井昌信, 糸井和子, 山田恵美子, 葛尾あゆみネイデ, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA, 堀本アンキャロル, 茂呂隆司, 坂本裕美, 小林あけみ, 小佐野隼, 増田英幸
8	平成28年 12月11日（日） 13:00～16:00	3時間 ×2回	群馬大学 太田キャンパス	24人	せっけんづくり 世代間交流①	・イントロダクション：日々の生活の中で見つかる「もったいない」 ・一般財団法人サンデン環境みらい財団の環境ネットワークキャンパス地域活性化プロジェクトによる環境問題についての説明 ・グループに分かれ、野菜粉末を使ってのせっけんづくり体験 ・「もったいない」についてのディスカッション	都丸礼子氏, 増山拓樹氏, 芝村貴志氏, 住谷理香氏, 結城恵	糸井昌信, 糸井和子, 山田恵美子, 葛尾あゆみネイデ, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA, 堀本アンキャロル, 茂呂隆司, 坂本裕美, 小佐野隼, 増田英幸
9	平成29年 1月8日（日） 13:00～16:00	3時間 ×2回	群馬大学 太田キャンパス	15人	振り返り・ 「報告会」事前学習	・各回で勉強したモデル会話、フレーズの意味の確認及び振り返り ・発表テーマの決定、グループディスカッション	結城恵	糸井昌信, 糸井和子, 山田恵美子, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA, 堀本アンキャロル, 坂本裕美, 小林あけみ, 増田英幸
10	平成29年 1月22日（日） 13:00～16:00	3時間	太田市 九合行政センター	19人	「お茶会」 世代間交流②	・茶道のマナー及びモデル会話の練習 ・お茶会体験 ・講師（ブラジル人）の先生による日本語の習得方法と生き方・暮らし方について体験談 ・全体ディスカッション	Da Silva Francisco Bernardes氏, ,結城恵	糸井昌信, 山田恵美子, 葛尾あゆみネイデ, 堀本アンキャロル, ISHIMARU MARCELO KOITI, 茂呂隆司, 坂本裕美, 小林あけみ, 小佐野隼

11	平成29年 2月5日（日） 13:00～16:00	3時間 ×2回	群馬大学 太田キャンパス	23人	「報告会」事前学習	・グループ別、報告会の発表原稿作成 ・グループ別、発表練習	結城恵	糸井昌信, 糸井和子, 葛尾あゆみネイデ, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA, 堀本アンキャロル, ISHIMARU MARCELO KOITI, 坂本裕美, 小林あけみ, 小佐野隼, 増田英幸
12	平成29年 2月12日（日） 12:30～14:30	2時間	群馬大学 太田キャンパス	27人	「報告会」本番	・指導者及び学習者による成果発表 （発表テーマ：あかぎ多文化交流キャンプ、健康クッキング、ブラ川場、せっけんづくり、お茶会） ・意見交換会	間瀬尹久氏, 結城恵	糸井昌信, 糸井和子, 山田恵美子, 葛尾あゆみネイデ, FARIA NATHALIA LEYKO YAMAKAWA, 堀本アンキャロル, ISHIMARU MARCELO KOITI, 茂呂隆司, 坂本裕美, 小林あけみ, 小佐野隼, 増田英幸

（1）特徴的な活動風景

○取組事例①

【第5回 平成28年10月30日】骨粗しょう症予防のための健康クッキング
「がん」や「脳梗塞」などの生活習慣病の検診は毎年実施されるが、「骨粗しょう症」は5年に1度しか検診の機会がない。検診の情報は、日本語が中心で、外国語に翻訳された冊子はあるものの、対象者に情報がなかなか届いていないのが現状である。
一方で、高齢期の日常生活では、関節痛などによる体の痛みや不快症状がトップとなっており、実際に、骨や関節に関する問題で通院している高齢者も少なくない。女性は特に閉経後に「骨粗しょう症」が増えるが、気づかない人もいる。乳製品を多く取る外国人住民は、アルコールや肉等の脂質、糖類を多く摂取する傾向があるために、カルシウムが吸収されにくく、「骨粗しょう症」になりやすいことが指摘されている。そこで、外国人住民のみなさんが高齢期に備える健康づくりの一環として、「骨粗しょう症」予防を理解し、調理でその予防を図った。
当日は管理栄養士を招き、食材の栄養などについて指導いただいた。その後、グループに分かれて日本語で「いためる」「きる」等、調理のときに使うキーワードやフレーズを確認し、調理を行った。参加者全員で配膳及び食事したあと、骨粗しょう症の予防方法等についてディスカッションした。

○取組事例②

【第7回　平成28年11月20日】「ブラ川場」
「ブラ川場」での視察・体験の学習を通して、学習者が集団活動に必要な係活動を分担し、みんなにとってより快適で円滑な進め方を工夫し実践した。
学習者がストレッチング及びウォーキングを実践し、地元産野菜やレストランでの食事を通して、高齢期に向けた健康管理に対する意識を高めた。
そして、川場村の観光資源に触れ、訪問先での歴史や日本の文化に興味関心をもち、地域日本語教室で学んだ日本語を使って地域住民と意見交換した。

（2） 目標の達成状況・成果

目標の総合的な達成状況については取組5の該当部分を参照されたい。
個々の単元について学習者の達成状況や成果を振り返り、次の教室への目標等を明確にし、活かせるようにした。例えば、第8回(平成28年12月11日実施)では、成果として次のようなものを抽出することができた。
1) 日本の「もったいない」の精神について学ぶことにより、自国のことを振り返り、他国出身の学習者と有効的な情報交換ができた。また、日本、自国、他の学習者の出身国の「もったいない」精神について共有する行為が、日本語を話すモチベーションとなり、積極的なディスカッションが行われた。
2) せっけんづくりにおいては、手順ごとの説明が行われたことにより、各工程における作業内容がわかりやすかった。一方、作業工程の全体像が見えにくく作業開始前に手順の説明があるともっとよかったとも考えられる。
3) 世代間交流という意味では、子ども世代と親世代の学習者が共に作業をすることによって交流を深め、「もたいない」についてのディスカッションを通して他の文化を知り、お互いの文化を尊重し、次の世代にも伝えていく機会を提供していくことが大切である。

（3） 今後の改善点について

総合的な改善点については取組5の該当部分を参照されたい。
個々の単元については学習者の状況を振り返り、抽出した課題について、具体的な改善点を検討した。例えば、第8回「せっけんづくり 世代間交流」(平成28年12月11日実施)では、次のような課題解決のための方策案を導き出した。
1) 学習者がグループでの作業に取り組む際の進行について：学習者の日本語レベルに合った役割分担を事前に十分に検討した上で、教室実践を行う。
2) 時間調整について：時間の関係により、せっけんづくりの作業進行が早く作業工程一つ一つをじっくり理解しながら取り組むのが難しかった。計画段階で指導者側が、それぞれの役割と詳細な手順や流れを把握、理解を統一し、目的に沿った運営ができるよう事前の話し合いを充実させる。また、事前話し合いに参加できない指導者がいることや、指導者間の理解の統一を向上するためにも、ポイントを絞ったわかりやすい資料を更に充実させていく。
3) 連携機関との協働について：事前打合せを行い、適切なレベル設定による教材の活用に取り組んだ。協働機関の方々には、当日の教育指導にも加わっていただいたが、教室の進行において、より綿密な調整が必要であることがわかった。さらに十分なシミュレーションを行った上で明確な共通認識を持って教室を運営できるよう改善する。

＜取組4＞

取組4

取組の名称	地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけた実態調査と実践地域関係者との協議会の開催							
取組の目標	事業責任者・コーディネーター・リーダー指導者となる多文化共生推進士が、対象地域(太田市・川場村・両地域の周辺地域)及び適用可能性を検討する他県他地域での実態調査を行い、「太田市」「川場村」関係者との企画・運営協議会を開催し、教室運営に関する協議をおこなう。							
取組の内容	「太田市」と「川場村」及び適用の可能性を検討している他県他地域での実態調査を実施し、地域日本語教室を企画・運営面する上で、留意すべき「高齢期」に備えるための外国人住民のニーズと地域の実情の把握。その結果をもとに、両地域の関係者と協議し、それぞれの地域で、地域日本語教室を展開する上での課題を抽出し、可能性を検証した上で、具体的な方策を検討した。							
☑ 空白地域を含む場合、空白地域での活動	「太田市」「川場村」において、外国人住民の「生活者としての日本語学習へのニーズ」と「地域日本語教室」に継続参加するための環境整備に関するヒアリング調査を実施した。また、本事業で提供する単元に関する他県他地域からの情報収集と、「空白地域」の取組の事例調査を実施した。その結果をもとに、対象地域の関係者と地域日本語教室プログラムの拡充と普及について協議した。							
取組による体制整備	【取組1】で開発したカリキュラムを【取組2】で養成した地域日本語教室指導者と共に、【取組3】で地域日本語教室で実践展開した。これらの実践結果を対象地域の実情に合った形態での実施につなげるため、対象地域での実態調査をおこなうと同時に、他県他地域における成功事例・失敗事例を収集し、その結果をもとに、地域日本語教室プログラム拡充・普及のあり方について協議会で検討した。							
取組による日本語能力の向上	日本に定住し高齢期に向けて備えをはじめる外国人住民が、「生活している地域」において高齢期を過ごすということを主体的にとらえ、高齢期にむけた納得のいく備えを考え、その考えをもとに日本語を活用して地域の人たちとコミュニケーションをとっていくことを導き出せるような環境を関係者とともに整備した。							
参加対象者	事業責任者・コーディネーター・リーダー指導者となる多文化共生推進士・2つの対象地域の関係機関の実務担当者				参加者数（内 外国人数）	2人		
広報及び募集方法	（該当無し）							
開催時間数	総時間 61 時間（うち空白地域 19 時間）							
主な連携・協働先	川場村むらづくり振興課、田園プラザ川場							
開催場所	川場村役場（利根郡川場村大字谷地2390-2）、道の駅田園プラザかわば（利根郡川場村大字萩室385）、群馬大学荒牧キャンパス 教育学部A棟101（前橋市荒牧町4丁目2番地）							

参加者の出身・国別内訳（人数）	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	日本（2 人）							

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	参加人数	取組テーマ	内容	指導者名	対応者
1	平成28年 6月27日(月) 10:00～12:00	2	川場村役場	1人	地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけた実態調査	川場村における日本語教室の開催に向けた地域関係者との協議の実施	取組担当者: 結城恵	川場村役場むらづくり振興課
2	平成28年 7月6日(月) 13:00～15:00	2	道の駅 田園プラザかわば	2人	地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけた実態調査	川場村における日本語教室の開催に向けた地域関係者との協議の実施	取組担当者: 結城恵	道の駅 田園プラザかわば
3	平成28年 8月1日(月) 13:00～16:00	3	道の駅 田園プラザかわば	1人	地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけた実態調査	川場村における日本語教室の開催に向けた地域関係者との協議の実施	取組担当者: 増田英幸	道の駅 田園プラザかわば
4	平成28年 8月5日(金) 13:00～15:00	2	猿ヶ京ホテル	1人	地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけた実態調査	川場村における日本語教室の開催に向けた地域関係者との情報交換	取組担当者: 増田英幸	猿ヶ京ホテル 社長
5	平成28年 9月6日～9月23日 13:00～15:00	2時間 ×6回	川場村役場 道の駅 田園プラザかわば	1人	地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけた実態調査	川場村における日本語教室の開催に向けた地域関係者との協議の実施	取組担当者: 増田英幸	川場村役場むらづくり振興課 道の駅 田園プラザかわば
6	平成28年 12月18日(日) 13:00～15:00	2	公益財団法人 石川県国際交流協会	1人	地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけた情報収集	石川県国際交流協会において、高齢期の定住外国人を対象に含むことができる外国人住民の支援事業と日本語教育についての情報収集の実施	取組担当者: 結城恵	公益財団法人 石川県国際交流協会
7	平成28年 12月26日(月) 14:00～17:00	3	愛知県庁	1人	地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけた情報収集	愛知県庁において「外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト」についての情報収集の実施	取組担当者: 結城恵	愛知県庁
8	平成28年 12月27日(火) 10:00～15:00	5	愛知県国際交流協会	1人	地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけた情報収集	愛知県国際交流協会において、外国人の居場所づくりプロジェクト「トライシクルプロジェクト」について情報収集の実施	取組担当者: 結城恵	愛知県国際交流協会
9	平成29年 2月13日～3月17日 13:00～16:00	3時間 ×6回	群馬大学荒牧キャンパス	1人	地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけた実態調査	地域の外国人住民のニーズと地域の実情を把握する調整業務の実施	取組担当者: 増田英幸	
10	平成29年 2月14日～2月17日 16:00～18:00	2時間 ×2回	群馬大学荒牧キャンパス	1人	地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけた実態調査	地域の外国人住民のニーズと地域の実情を把握する調整業務の実施	取組担当者: 増田英幸	
11	平成29年 2月28日～3月16日 13:00～15:00	2時間 ×4回	群馬大学荒牧キャンパス	1人	地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけた実態調査	地域の外国人住民のニーズと地域の実情を把握する調整業務の実施	取組担当者: 増田英幸	

(1)特徴的な活動風景

○取組事例①

【第2回　平成28年7月6日】
太田地域での地域日本語教室の実践を川場村地域で活用する方策について、地域関係者と協議を行った。本年度も「ストレッチングとウォーキング」を学習テーマの一つとし、その実践の場所として、道の駅田園プラザかわばを検討した。そのほか、活動内容や必要な教材等について検討し、学習者・指導者が地域関係者と交流する候補地を訪問した。

（2） 目標の達成状況・成果

事業責任者・コーディネーター・リーダー指導者が、地域日本語教室を開催している太田市、空白地域としての川場村とその周辺地域、及び他県の実態調査を行った。川場村では太田教室の学習者による日本語教室の実践に向けて、川場村役場関係者をはじめ訪問先の担当者と協議を行い体制整備を図った。また、石川県国際交流協会の外国人支援事業、愛知県「外国人高齢者と介護の橋渡しプロジェクト」、愛知県国際交流協会の外国人の居場所づくりプロジェクトに関する実態調査を通して、本事業の地域日本語教室のカリキュラムに反映させるほか、他県他地域でも応用可能なプログラムとして拡充するため、リーダー指導者・コーディネーターらと意見交換を重ねた。

（3） 今後の改善点について

外国人住民の状況は地域により異なるが、他地域での取組事例にも参考になる点が多くある。地域の特性を十分に把握し、外国人住民の多様なニーズに応える日本語教育の実践のためには、カリキュラム構築に加え、地域での実践を担う指導者チームを養成し、常に資質向上を図ることが重要であることがわかった。地域人材の掘り起こしに際しては、外国人住民自身が支援・指導する側で活躍する場をさらに拡充し、外国人住民と日本人住民が相互理解・相互尊重を実感できる場づくりが必要である。

＜取組5＞

取組5

取組の名称	地域日本語教育プログラム拡充・普及にむけたシンポジウムの開催	
取組の目標	「ぐんまで『高齢期』に備えるための日本語教育」プログラムを、本年度の取組をもとに、群馬県内外のより広い地域に普及させる上で改善をはかるべき事項を抽出し、地域日本語教育プログラム充実のための方策を導き出す。	
取組の内容	本事業に関心のある県内外の関係者を対象にシンポジウムを開催し、【取組1～4】の成果と課題を報告して、本事業が掲げた3つの目標の達成状況と取組の効果と課題を検討した。その結果をもとに、今後、「ぐんまで『高齢期』に備えるための日本語教育」プログラムを、群馬県内外のより広い地域に普及させる上で改善をはかるべき事項を抽出し、地域日本語教育プログラム充実のための方策を導き出した。	
☑ 空白地域を含む場合、空白地域での活動	本事業では、空白地域として、川場村を設定した。【取組5】では、この地域での「太田教室」の学習者との交流の結果報告を実施、今後、同地域で地域日本語教育活動を進めるために必要な環境整備のあり方を検討した。	
取組による体制整備	「外国人集住地域」の取組から「外国人散在地域」を含めた取組を構想する上で、必要となる普遍的な内容・方策と地域に特化した内容・方策を整理し、来年度以降の教育プログラムに活かすせるよう協議した。	
取組による日本語能力の向上	今期の地域日本語教室を通じて、日本に定住し高齢期に向けて備えをはじめる外国人住民が、日本で高齢期を過ごすということを主体的に考え、高齢期にむけた納得のいく備えを進めることの意義を、学習者自身が自覚し、自らの選択に誇りを持って次世代に伝える日本語力が向上した。高齢期を生きる外国人住民としての知恵や工夫が、外国人住民のみならず、日本人住民にも示唆を与えるものであり、自らの生き方を日本人にも日本語で伝えることで始まる地域での関係が、より豊かで安全安心な日本での定住を導き出すことを体感する機会を提供することができた。	
参加対象者	本事業に参加した学習者とその家族・コーディネーター・指導者・講師・高齢者に関わる行政、社会福祉、保健等関係機関に従事する者、広く県民一般。	参加者数（内 外国人数）：67人（53人）
広報及び募集方法	プレスリリースを作成し各メディアを通して県民一般への周知広報に努めると共に、本事業に参加した学習者やその家族等関係者より地域の方への周知広報し参加者を募った。	
開催時間数	総時間 2 時間 （空白地域 該当無し）	1回 2 時間 × 1 回
主な連携・協働先	群馬県生活文化スポーツ部人権男女・多文化共生課、群馬県利根沼田行政県税事務所、太田市企画部交流推進課、川場村むらづくり振興課、田園プラザ川場、青龍山吉祥寺、永井酒造株式会社、国立赤城青少年交流の家、群馬県栄養士会、一般財団法人サンデン環境みらい財団（環境ネットワークキャンパス）等	
開催場所	群馬大学太田キャンパス（太田市本町29-1）	

参加者の出身・国別内訳（人数）	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル
	4				7			23

日本（14）、ペルー（16）、インド（2）、ボリビア（1）

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成29年 2月12日（日） 14：30～16：30	2時間	群馬大学 太田キャンパス	27人	実践交流・意見交換会	学習者と指導者がこれまでの取組で学習・体験したことについて報告。その報告成果をもとに、学習者・指導者・参観者が意見交換しながら、地域日本語教育プログラム充実のための方策を探った。	間瀬尹久氏, 結城恵	糸井昌信, 山田恵美子, 葛尾あゆみネイデ, 堀本アンキャロル, ISHIMARU MARCELO KOITI, 坂本裕美, 小林あけみ, 小佐野隼, 増田英幸

（1）特徴的な活動風景

〇取組事例

【第1回　平成29年2月12日】
学習者と指導者がこれまでの取組を報告した。報告では、学習者が中心になって、あかぎ多文化交流キャンプ、健康クッキング、ブラ川場、せっけんづくり、お茶会の活動で学んだことや、経験したことについて日本語で発表した。その報告成果をもとに学習者・指導者・参加者が意見交換をしながら、地域日本語教育プログラム充実のための方策を探った。

（2） 目標の達成状況・成果

会場参加者から次のようなコメントを得た。以下のコメントにも記されているように、運営委員会や会場参加者からも好評であり、別紙の日本語学習者に対するアンケート調査の結果も学習者からの満足度の高さと学習の継続希望が現れていた。

地域日本語教室指導スタッフ養成講座参加者からのコメント

・日本語教室では意識的に簡単な日本語を使用してきたが、学習者が積極的に勉強していることもあり、今会では学習者さんが考えていることをそのままの言葉で発表しており、日本語への想いの強さを感じた。
・学習者が日本語教室で学んだお料理等を日常的に生活に取り入れており、本教室を通して健康への意識が高まっていることを感じた。
・フランシスコ先生のお茶の会では、先生ご自身が外国人ということもあり、わからない人の目線に立って学習者に話をしてくださり、学習者もその話を聞いて、日本の文化に興味を持ってもらえたのではないかと思う。

日本語教室受講生(学習者)からのコメント

・日本語だけではなく、文化を含めていろいろなことを学べてとても楽しかった。
・日本語教室に参加して、活動や料理や文化を学ぶことで生活が変わった。特に、クッキング教室を受けてからは食事に気を使って、野菜をたくさん食べるようになった。
・指導者が別々ではなくチームで授業準備をしてくれていたので、授業がわかりやすかった。とても良い教室なので、家族や友達も一緒に楽しく参加した。

会場参加者からのコメント

・発表を聞いて、文法ができていて、学習者がとても頑張ったと感じた。
・日本語教室を通して外国人の方と接してみて、学習者が日本でとても頑張っているのだと知ることができた。それを見ていて、外国の方々が日本の文化を学ぶように、自分もいろいろな国の文化をもっと学びたいと思った。
・学習者の日本語をもっとできるようになりたいという熱意がすごく伝わってきた。日本語教室にうかがうたびに、学習者の日本語が上達していることにとても驚いた。

間瀬氏(東広島市教育文化振興事業団)からのコメント

・地域の外国の方と日本の社会との懸け橋になる日本語教室の必要性を強く感じた。日本語教室は、日本語学習が中心となり、そこに文化も取り入れましょうというかたちになってしまいがちだ。しかし、こちらの日本語教室は、日本で生活する上で学習者が知りたいことや知っておいた方がよいことが基盤にあり、言葉として日本語も必要だという立場に立っての取り組みだと思う。また、日本語教室を通して、生活に変化が生じたり、健康に対する意識が高まったり、学習者の家族が「お母さんがすごく楽しそうだったのがよかった」と感じることができるのはすごくいいことだと思い、勉強をさせていただいた。

（3） 今後の改善点について

今後は、取組2と取組3の記述にも示したように、指導者養成講座での振り返り等で抽出された課題の解決を核に、本プログラムの拡充を図りたい。

4. 事業に対する評価について

（1） 事業の目的・目標

日本に定住し高齢期に向けて備えをはじめる外国人住民が、日本で高齢期を過ごすということを主体的に考え、高齢期にむけた納得のいく備えができるように支援する地域日本語教育を実現する。

（2） 目的・目標の達成状況・事業の成果

「このプログラムを受けて、日本語は前より上手になった」「このプログラムを受ける前よりも、日本での生活ができるようになった」「このプログラムの内容に満足してい」「もっと日本語を勉強したい」という4つの観点において、すべての学習者が肯定的な回答をしたことから、学習者に対して、本事業の目的・目標は達成したと考えられる。また、本事業の体制整備や関係機関との協働、地域住民の日本語教育に対する理解の深まりについても、運営委員全員から肯定的な評価を得たことからも、本事業の目的・目標は達成したと考えられる。本事業の成果報告会では、学習者・指導者それぞれの視点から、学びの深さと広がりについて質的なコメントを得られ、本事業が当事者にとって意義があるものであったことが確認された。

（3） 地域の関係者との連携による効果，成果　等

連携した地域の関係者は、群馬県生活文化スポーツ部人権男女・多文化共生課、群馬県利根沼田行政県税事務所、太田市企画部交流推進課、川場村むらづくり振興課、田園プラザ川場、青龍山吉祥寺、永井酒造株式会社、国立赤城青少年交流の家、群馬県栄養士会、一般財団法人サンデン環境みらい財団（環境ネットワークキャンパス）等、産官学民の多様な主体と、それぞれの特徴を活かした連携が図れた。また、学習者・指導者からの紹介で、ブラジル人コミュニティの中核的人財・機関（教会・学校）とネットワークを形成し、事業を推進することができたことも特筆すべきことであった。これらの連携の効果・成果としては、継続的な連携関係に発展し、次年度の事業計画も協働で検討できたことがあげられる。

（4） 事業実施に当たっての周知・広報と，事業成果の地域への発信等について

対象となる外国人コミュニティのなかにある、教会や学校関係者が学習者や指導者として参加していることがきっかけで、参加者への周知・広報が着実に対象者に広がった。これらの関係機関のイベントを利用して周知広報をすることは、本事業の理解・支持に特に効果的であった。

（6） 改善点，今後の課題について

1年間の事業を終えて、本取組の可能性と課題として集約されることは、学習者のみならず、指導者、講師、本取組に参画していただいた地域関係者、そして、地域日本人住民のすべての方々にとって、本取組に意味があり、メリットが得られるように、目的を設定し、内容を構成することである。この観点から、本年度のみならず過年度のすべての取組を振り返り、関係者とともに意見交換をし、来年度以降の取組に反映できるような仕組づくりを進めたいと考えている。本年度は、その試行的な方策として、取組1「地域日本語教室プログラム拡充のためのカリキュラム開発」の一環として、3月13日に「実施事業の振り返りと地域日本語教室カリキュラムについて」と題した会を開催したが、従来は、こうした内容については「運営委員会」で検討していたものである。今後は、本取組の担い手、あるいは、支え手である多様な主体にも、参画してもらう会を設け、全員が納得してひとつの目的を協働で達成できる取組としていきたい。